

## ■ 己亥、亥年とは？



明けましておめでとうございます。2019 年もどうぞよろしくお願いいたします。

皆さんは、2019年をどんな年にしたいですか？

今年の干支は「亥」（い）、十干は「己」（つちのと）ですので、「己亥」の亥年となるそうです。

「己」→ 繁栄したものを統制する意味

「亥」→ 生命が閉じ込められている状態

このことから、【今現在の状況を維持し、守りの姿勢に徹した方がよい】【次のステージのための準備期間】といった意味合いがあるそうです。

前回の己亥の年は 1959 年。この年を代表する出来事は当時の皇太子様と美智子様のご成婚です。60 年前にご結婚された当時の皇太子様が、60 年後の 2019 年、天皇を退位されることを考えると不思議なめぐり合わせを感じます。

亥年生まれの人の性格は、「芯の強さが特徴で、裏表がなく何事にも熱心。かつ、物事をやり遂げる情熱がある」だそうです。

亥年の学年は、5年生です。4月になれば吉田小学校の最高学年としてリーダーシップを発揮して欲しいと思います。3学期の3ヶ月間は、「次のステージの準備期間」として、自分は何をすべきか、何ができるか考えて自ら行動してくれることを期待したいと思います。

## ■ 「〇〇かえる」の〇〇に入る言葉



「東京ソラマチ」に行った折、お正月飾りを販売しているお店で思わず購入した「福を六かえる」を校長室に飾りました。

なぜ、干支の「亥」（イノシシ）ではなく、「かえる」なんだと思う方がいらっしゃると思いますが、深い理由はありません。あえて言えば、真ん中の蛙と、目と目が合ってしまったからとしか言いようがありません。

しかし、購入後は、「〇〇かえる」の〇〇に善い言葉を当てはめれば、とてもいい感じになることに気がつきました。例えば、

校長室に来るお客様は、福の神とすれば、「福の神を迎える」子供達が授業で一生懸命「考える」、授業の終わりでは「学習を振り返る」1日の学校生活が終わったら家に「無事帰る」一年の学習の成果があがり「見違える」。などなど……。

私たち大人は昭和から平成と時代が流れ、もうすぐ平成の30年間が終わります。平成を振り返ると楽しかった思い出が「蘇る」ことがしばしばです。

ですが、次の時代を生きる子供達には、変化の激しい時代をよりよく生き抜く力を身に付けてもらえるよう指導・助言していかなければと思います。

今こそ、「チーム吉田小」の力を発揮して、保護者や地域の皆様と協力し、子供達の健全な成長のために、旗（Frog Flag）を振ってまいりたいと思います。

## ■ 富岡市父の日大会



永井志歩さん、高山鈴音さんは、12日(土)に富岡市生涯学習センターで開催された父の日大会に参加しました。一緒に参加して下さったそれぞれのお父さんに花束を渡し、お父さんの前で、永井さんは「わたしのお父さん」、高山さんは「お父さんへの感謝」という作文を朗読しました。大勢の来賓の方や参加した児童や保護者の前で堂々と作文を読む姿は自信にあふれ、立派でした。

平成30年度 富岡市父の日大会

最優秀 永井志歩さん(4年)

最優秀 高山鈴音さん(6年)

## ■ 富岡市成人式

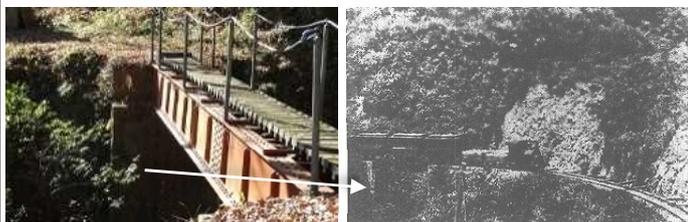


本校の事務職員、阿久澤 紗菜さん(平成10年6月生まれ)は、成人式を迎え、13日(日)に、かぶら文化ホールにて開催された富岡市成人式に出席しました。というより成人式実行委員として企画の段階から他の実行委員と協力して成人式を作り上げた一人です。当日、成人を代表して、「誓いの言葉」を壇上で読み上げる大役を果たしました。

実行委員は、市内の中学校の卒業生から選出されます。阿久澤さんは南中出身です。

日頃から子供達に近い存在で、時々一緒に活動してくれたり、読み聞かせをしてくれます。

## ■ 旧上野鉄道鬼ヶ沢鉄橋



鉄橋の土台はレンガ造り 明治32年頃の鬼ヶ沢鉄橋  
(2018年12月撮影) (上信電鉄百年史より)

上信電鉄千平駅からさらに195号線を山間部へ進み、小坂坂峠と梅澤峠の分岐を下仁田方面へ500mほど進んだ道の脇道を谷の方へ下りると、富岡市と下仁田町の境の大谷川(だいやがわ:通称鬼ヶ沢)に架けられた鉄橋があります。

富岡市指定の重要文化財です。明治30年(1897年)、上野鉄道(株)、現在の上信電鉄(株)により軽便鉄道として建設されました。

大正13年(1924年)に電化・広軌化され、この鉄橋とその前後は当時のままですが、それ以外は廃線となりました。

全国的にも歴史が古く、明治20年設立の「伊予鉄道」に次いで2番目に古い私鉄とみられています。

## ■ 実相寺と天満宮



実相寺



天満宮

上野国大守(今の群馬県の知事のような役職)の命を受けた惟喬親王が、南蛇井の地に至り霊地なるこの山に心惹かれ、3ヶ月間この山にこもった。親王は、都より天台宗座主尊意僧正を招き一寺を開かせた。これが、実相寺の始まりである。尊意僧正は、後の右大臣菅原道真の学問の師であったとされる。

時が流れ、西暦903年、菅原道真が遠く九州の地で罪の許されぬまま死すとの便りを受けた尊意僧正が、その死を悼み、道真が初めて僧正のもとで学問を志した3歳の時の姿を木像に刻み、これを実相寺の傍らに祀ったという。

これが天神社(天満宮)の起こりである。毎年2月の最終日曜日にお祭りが実施されます。吉田小では、学力向上を祈願したお札をいただいています。